11 タイトル「生活習慣病とイチョウ葉エキス」

植松　大輔
慶応大学医学部　神経内科講師

ドイツ、フランスをはじめ欧州諸国では、Ginkgo Biloba Extract（GBE）、イチョウ葉エキスが 20 年以上前から医薬品として慢性脳循環不全による脳機能障害に伴う諸症状に対し広く使用され、すでに二重盲検試験でも有効性が確認されている。我が国では規定により、医薬品として承認されていない。このためイチョウ葉エキス製品は健康食品として 60 社以上から種々の剤型で市販されている。しかし、その品質は欧州の医薬品と同等のものから単にイチョウ葉成分を含むものまで玉石混合の状態である。

今回我々は 20 名の脳血管障害後遺症もしくはアルツハイマー型老年痴呆症の患者に GBE－24（サンウエル）240mg／日を４週間使用し、その前後において臨床症候の変化および Single Photon Emission Tomography（SPECT）による局所脳血流の変化を検討した。全体的な印象としては若返った印象を与える患者が見受けられた。脳血流は SPECT を用い明らかな低血流を測定領域に ROI をとり、小脳の平均カウントとの比の百分率で評価した。脳血流を測定した 10 例中 8 例に血流改善がみられ、低血流領域の平均値の推移は投与前 70.7％から 77.2％へと有意な増加を示した。

イチョウ葉のエキスは 20 年以上も前から注目され欧州でベストセラーとなったスタンダードな治療薬であるが、我が国では専門医の認識がまだまだ低いことと、健康食品の範疇であるため、製品の差別化が今後の課題である。